

いつ起こるか分からない災害に備えて

高めよう防災力



いつ何時訪れるか分からない災害。日頃から十分な備えを行っておくことが、実際に災害が起きたときに役立ちます。若林蓮台行政区での精力的な防災訓練や、町と坂東総合高校との協定後初の合同防災訓練、水害に備えるため行われた防災先進地への視察研修などの様子をお伝えします。

●平成28年12月11日(日)
若林蓮台行政区防災訓練



消火器を使用した消火訓練



息の合ったバケツリレーで素早く消火



消防署員による AED 講習も実施

いつ起こるか分からない災害だから、毎日頃の心がけが一番大事だと思います。毎年多くの行政区の皆さんが参加してくれて、12年間続いたこの防災訓練を、今後もできる限り続けていきたいです。
(若林蓮台防災会長：中村 治雄さん)



写真左から染谷榮副区長、中村治雄防災会長、染谷一男区長、防災会計の甲田勝公さん



子どもからお年寄りまで毎年多くの住民が参加

**12年続く防災訓練で
住民の防災意識を高める**

12月11日(日)、若林蓮台公民館において、今回で12年目の開催となる防災訓練が行われました。

当日は、子どもからお年寄りまで若林蓮台行政区の多くの皆さんが参加され、利根川決壊時の防災シミュレーションによる消火訓練や消火器を使用した消火訓練が行われ、多くの参加者が実際に消火訓練を体験しました。

また、坂東消防署の署員を講師に迎え、AEDを使用した救急救命講習も行われました。

今回の防災訓練に参加された方々は、積極的に訓練に取り組み、消防署の署員に「町の中ではAEDはどこに設置されていますか?」、「お年寄りがモチをのどにつまらせた時の対処を教えてください。」といった質問を投げかけるなど、若林蓮台行政区の皆さんの自助・共助の意識の高さが感じられる防災訓練となりました。

●平成28年12月8日(木)

**境町×坂東総合高校
初の合同防災訓練**



▲校内施設を見学する参加者の皆さん

▶町を代表し挨拶を行った橋本町長



避難経路や施設を確認

12月8日(木)、茨城県立坂東総合高等学校(坂東市逆井)において、境町と坂東総合高校による初の合同防災訓練が行われました。

町は、利根川が決壊した場合、約8割が浸水する可能性を指摘されており、平成28年6月に坂東総合高校と水害時の広域避難に関する覚書を結んでいます。

今回の訓練には、町から行政区長や消防関係者、役場職員など約60名が参加し、坂東総合高校までの避難経路の確認や校内施設の見学、また、生徒とともに教室での煙発生を体験しました。

今後は、炊き出しや宿泊を想定した訓練、避難所の運営などのより実践的な訓練の実施も検討していきます。



坂東総合高校の敷地内には宿泊施設も完備



▲▼教室内で火災時の煙発生を体験



●平成28年12月1日(木)～2日(金)
**境土木協議会
新潟県三条市・見附市
で視察研修を実施**



三条市での研修の様子



見附市での研修の様子



災害時の防災ステーションも兼ねた道の駅「パティオにいがた」内には過去の水害の「防災アーカイブ」も常設

**三条市・見附市の
水害対策を学ぶ**

12月1日から2日の2日間、境土木協議会(会長・橋本正裕町長)では、水害対策の先進地である新潟県三条市及び見附市において、視察研修を行いました。

初日の三条市では、過去2度の水害被害経験を通して培われた様々な減災対策について、また、2日目の見附市では、市民の4人に1人が参加するという防災訓練などについて研修が行われました。その後、災害時の防災ステーションも兼ねた道の駅「パティオにいがた」の視察も行われました。

境土木協議会では、今回の研修で学んだことを今後の町の水害対策に役立てていきます。